

女子高校生の卒業の進路調査

— 特に進路決定に際しての家庭的社会的制約の要因について —

お茶の水大学 関野 豊三

1. 趣 旨

女子高校生が卒業期に当って将来の進路を決定することは、人生途上における最初の重要問題である。それは単に自分一個の能力、傾向という一つの要件のみで決定できない。むしろ広汎な諸要件のかみ合せによつて始めて最終の決定に達するものと思われる。すなわち将来の自分の生活像想定のもとに、現在自分を取りまく家庭的社会的要件に強く影響を受けつつ決定されるにちがいない。進路決定を左右したり、制約したり、或は圧迫さえしたりする家庭的社会的要因は (1) どのようなものでどのような背景をもつものであるか。 (2) それがかどのような課題を提供しているか、を考察したい。

2. 研究計画

三ヶ年計画で行う。卒業後の進路は、進学、就職、家庭の三方向をもちものであるがその中本年度第一次として進学志望者70%以上の女子高校生(大阪市地域)を対象とし、第二年度は逆に進学志望者30%以下の女子高校生(農村地域)に対し、第三年度は進学志望者50%内外の女子高校生(中都市地域)に対する調査の資料をもとに主題に關する考察を進めたい。本年度の報告の資料は、東京都のT高校並にT高校の240人の調査による。

3. 第一次報告

1. 進路決定を左右する条件として家庭的要因が強くでるのではないかの予想をもちたが、その決定の直接的のものは、生徒個々の意志が殆んど決定的の強さをもつておることが知らされた。父母の希望や意見は子供の意志の前には極めて弱いものであるということである。
2. 女子が進路を定めるに今日程困惑しなければならぬ時代はかつてない。子供の意志の背景には彼女等に無意識的に社会的制約の力が加えられておることは軽視できない。すなわち (イ) 女子の将来の生活像の不明確さ